

平成 27 年度第 1 回 京都市環境審議会

日 時 平成 27 年 8 月 5 日(水) 午後 1 時 30 分～3 時

場 所 京都ガーデンパレス「祇園」の間

出席者 浅岡委員, 板倉委員, 大里委員, 尾崎委員, 小幡委員, 笠原委員, 才寺委員,
坂野上委員, 塩路委員, 住岡委員, 高田委員, 内藤委員, 中島委員, 仁連委員,
濱崎委員, 久山委員, 深尾委員, 牧野委員, 松本委員, 三浦委員, 村井委員,
村瀬委員, 森本委員, 山本哲司氏(山口委員代理), 山舗委員

欠席者 大久保委員, 木崎委員, 小杉委員, 小山委員, 在間委員, 島田委員, 諸富委員,
湯本委員

1 開会

- ・環境政策局長 挨拶

2 議題

(1) 会長の互選及び会長職務代理者の指名について

- ・会長に内藤委員が就任
- ・内藤会長から, 会長職務代理者に笠原委員を指名

(2) 部会の構成員及び部会長の指名について

- ・事務局から, 設置する検討部会について, 資料 1 に基づき説明
- ・引き続き, 環境基本計画改定検討部会, 地球温暖化対策推進委員会, 生物多様性保全検討部会, 京都環境賞選考部会を設置
- ・内藤会長から各部会の構成員を指名
- ・環境基本計画改定検討部会部会長に小幡委員, 地球温暖化対策推進委員会委員長に仁連委員, 生物多様性保全検討部会部会長に湯本委員, 京都環境賞選考部会部会長に山田委員がそれぞれ就任

(3) 環境基本計画の改定について

- ・環境基本計画改定検討部会部会長である小幡委員から, 環境基本計画の改定及び検討状況について, 資料 2 に基づき説明

(内藤会長) ただいまの説明や、改定全般について御質問や御意見があれば頂戴したい。

(笠原委員) ここでいう長期的目標というのはどのくらいまでを考えているか。どのくらいの期間を想定するかによって、考え方そのものが変わっていくだろう。現代は高齢化とともに人口減が進んでいるので、これをどう計画に取り込んでいくか検討が必要かと思う。

(内藤会長) その他、例えば、地球温暖化対策や、生物多様性といった、それぞれの計画でそれぞれに計画年次が異なっている。計画の期間について、事務局の考え方を教えていただきたい。

(三宅環境企画部長) 環境基本計画は、ワークショップ等での市民意見を取り込みながら、平成 28 年度から 10 年間の計画として策定していく予定である。

長期的目標についていくつかの目標を掲げる予定だが、それぞれの環境政策の柱となるような目標を掲げられたらと考えている。

内容については、検討部会で議論いただくことになるが、20～30 年後を見据えながら、その中で次の 10 年はどうするか、という内容となるだろう。

(小幡委員) まさしく本日、審議会に引き続いて検討部会を開催する中で検討する予定である。10 年間の長期的目標としながらも、さらに先の未来を視野に入れながらの議論を行うことになるだろう。

個別分野の計画においてそれぞれの目標が設定されている中で、環境基本計画は各計画を束ねたうえで長期的目標をどのように策定するのか、ということについて検討しなければならない。

(仁連委員) 長期計画を作る際、フォーキャスティングではなく、バックキャスティングということで、是非やっていただきたいと思う。

将来の京都市の自然と、人間のくらしの関係をどういう形にしていくのか、その実現のために、この 10 年間で何ができるのかというのを考えて基本計画を作ってほしい。

世界のどの大都市も、そういう方向で基本計画を策定しているので、京都も世界に恥ずかしくない計画を策定してもらいたい。

(内藤会長) 温暖化計画でもバックキャスティングが大流行したが、実現に至らなかったものも多い。まず目標を決め、皆の合意の上でそれに対してどう行動していくかを決め、ロードマップを描く。実効性を生むためにはこうする必要があるが、例えば、他の分野、生物多様性の分野だと難しいだろうか。

(森本委員) 国の生物多様性戦略づくりの議論に何回か参加した。愛知ターゲットという明快なものが出ている。保護地域というキーワード、国定公園の見直しの議論も進んでおり、具体的な話として、計画の参考にできるのではないだろうか。

生物多様性をキーワードとして入れるのは、大事なことだと思う。

参考までだが、国交省では、都市の生物多様性指標を検討している。国際的

には、シンガポール指標というものがあるが、さらにそれを日本に適合した意味のある指標として、ここ数年間、検討されてきた。既に数値の試案が出ており、今年度も議論すると聞いているので、うまく適用できないか、検討したらいいと思う。

(内藤会長) 最近は生物多様性を政策のメインストリームにしていくという動きがある。

京都市ではそういった動きはあるだろうか。

(足立環境政策局長) 本市ではこの間、生物多様性プランを作成した。京都の伝統行事、文化も生物とのかかわりが深いということである。京都市は面積が 800 平方キロメートルある中で、森林の割合が非常に高い。

国や都道府県レベルでレッドデータブックを作成したりしていたが、都市でできることも色々あるということで、特にこの分野に注力していきたいと思っている。

何を指標にしたらいいのかというのは今後よく勉強していきたい。目標についても、1つの都市で、どのぐらいの結果を残しうるかということも考慮する必要がある。達成できるかどうか分からないまま、目標を立てただけということにはならないように気を付ける必要もある。最新の知見も取り入れながら検討していきたい。

(内藤会長) 濱崎委員はこの分野での講演をされたということであるが。

(濱崎委員) 生物多様性協働フォーラムのことかと思う。

私は伝統文化を広める活動をしており、その視点からのお話をさせていた

いた。

一つの伝統文化を成り立たせるためには、色んな原材料が必要であるが、例えば、茶道一つにしても、畳の原材料は京都、日本ではほとんど生産していないという現状に、我々は普段、気づいていない。

世界の観光客がなぜ京都に来るのかというと、美しい街並みとか豊かな自然などを期待しているはずだが、実際はというと、必ずしも期待どおりの姿になっているとも言えない。

そういったことを真剣に考え、温暖化の問題でも、昔の人はどうだったろうかと思いをはせるだけでも、歴史の中から人々の知恵を知ることができる。一つのものを考えるだけでも、すべてつながっているというストーリーを思い描くことができる。

多様性の問題は、どこからひも解いていいか分からないという面もあるが、伝統文化をひとつのきっかけに、知ってもらおうということもでき、研究者と市民のネットワークが一緒になって取り組むべきではないかということで、お話させていただいた。

(内藤会長) 森本先生もそれを考えていらっしゃって、京都の固有の多様性を復元しようと努力されている。

(小幡委員) あと、お手元にワークショップへの参加という資料がある。

子どもたちが将来こんなふうになってほしいと夢見る、そしてそれらの実現のために大人はどう考えるかということについて意見交換を行う。これは初めての試みになるし、ここでもバックキャストिंगの考え方が取り入れられればと思う。

環境基本計画において、市が目指す環境像については、市の基本計画も踏まえたものとする予定である。市の基本計画では、環境分野における未来像として、「環境共生と低炭素のまち・京都」を定めているが、それはどんなまちを目指すことになるのだろうか。そういったことについても、具体的な内容として議論したい。

(内藤会長) 市民からは、定性的に色々なことをおっしゃってくださると思う。それをどう定量化していくかということが難しく、色々な努力が必要である。

国はアダプテーションについても議論しはじめている。熱中症への対策としてエアコンを使うことは当然、必要であるが、その一方でエネルギーをますます使うことにもなり、結果的に温暖化は加速する。

(仁連委員) クーラーを入れなくても、エネルギーを使わずに涼しくする方法はいくらでもあるのに、それを取り入れないのが問題なのだと思う。

(内藤会長) 京都のまちを涼しくする気持ちはあっても、すべての市民が受け入れるかという意見もある。

(濱崎委員) 部会に所属していないので分からないのだが、改定中の環境基本計画において、市民の満足度評価を取り入れる背景はどういった経緯だろうか。市民が協力しないだろうという前提の上で満足度を語っていると、うまくいかないのではないか。

(小幡委員) 現行計画では、数値として表される客観的な指標を並べていたのだが、それだけでは測りきれない側面もあるので、従来の客観的指標と併せて、主観的な指標を取り入れることを考えている。

目標に対して評価をする際に、よりの確に評価できそうな指標を探して入れようと思っている。

(濱崎委員) 「満足度」という言葉が、何を満足しているのかが分かりにくい。

(小幡委員) 例えば、「温暖化が進んでいると思うか」ということについてアンケート等で調査し、「そう思う」が 30%で「そう思わない」が 70%であり、なおかつ客観数値では温暖化は横ばいか改善されていることが示されている場合に、市民の感覚としても、数値としても「地球温暖化は進んでいない」という風に評価する。目標の達成度合いに対する評価という風に見ていただけたらいいかと思う。

(浅岡委員) 満足度というのは、もう少し政策的インプットが必要と思う。今年 COP21 がある関係で、ワールドワイドビューという、市民の討論型投票制度のような世論調査があった。

日本以外の先進国では、温暖化対策をすると生活の質が上がると回答するが、日本は逆に、負担があつては困るという回答が多かった。

対策をしていることがどのような効果を上げているかという情報の共有が大切ではないかと、この結果に非常に考えさせられた。前向きに捉えられるということが大切であると思う。

(内藤会長) 日本の問題はそこに象徴されていると思う。情報提供が偏っている気がする。

一時は、原発はとても良いものであるという内容の情報が流れていたし、車について、京都市が「歩くまち」への移行を進めようとしている今、なぜこんなに車をキャンペーンしなければならないのかとも思う。国民がどれだけ賢く見抜けるかということである。

(塩路委員) 国が考えていることとの整合性なども考慮されているのかということと、ワークショップについてお聞きしたい。

私は国の中央環境審議会の部会に所属しており、ちょうど環境基本計画の見直しをしている。そこで議論されているようなことを、市の環境基本計画の策定に際してどの程度参考にされるのか。

具体的には、中央環境審議会では3つの重点項目を掲げている。

一つ目は、社会情勢の変化を踏まえた新たな課題ということで、騒音、ヒートアイランド、アスベストの対策を重点的に検討するとしている。

二つ目も広域的な取組として、PM2.5、光化学オキシダント、それに関連してVOCの排出抑制についてである。

最後は自動車に起因する環境負荷の低減として、次世代自動車の普及促進とエコドライブや交通流対策等である。

市の計画も、このような国の動きを踏まえて取り組まれるのか、それとも京都市独自で考えられているのか、といったあたりをお教えいただきたい。

(小幡委員) 環境基本計画は、国の計画の整合に留意し、エネルギーの問題、エコロジカルフットプリント、少子高齢化などの社会情勢も含めて整理するつもりである。

一方で、目標の設定は、市の基本計画に基づくものとする予定なので、国が考えていることを、ダイレクトに入れるかどうかは検討を要する。

市の基本計画におけるキーワード、環境との共生、低炭素のまち、持続可能といったものが大きな方針となるだろうと考えている。

(塩路委員) 国の動きも少し見ておいてほしいと思う。

あと、ワークショップで子どもたちに意見を聞くことについて、未来を担う子どもに引き継ぐという趣旨はとてもいいことだと思うが、果たして子どもた

ちが意見を出せるのか。中・高校生でなく小学生のみを対象に、そこで意見が出たとして、どの程度のレベルにあるものかという不安がある。

(三宅部長) 具体的なワークショップの内容は、事務局の方で検討したものを部会に報告させていただくので、事務局から回答させていただく。

私どもも初めての試みで、こうしたいというのはあるが、実現するか分からないというのが正直なところである。

夏休み期間には、京エコロジーセンターに子どもたちがたくさん来ているので、そこに来て環境に関する問題意識を持ってくれた子どもが申し込んでくれることを意図している。

中学生は小学生の間に環境問題を学習しているので、それぞれが問題意識を持ってくれているのではないかと期待している。小学生の子どもたちにおいては、一人で意見を出すのは難しいかもしれないので、保護者の方々にも協力してもらって進めたいと思う。

ここで出てくるアウトプットがどんなものになるかは、正直やってみないと分からないが、エコロジーセンターの職員も環境問題に対する催し物や啓発を行っているので、参加者の意見をうまく引き出せると考えている。

(深尾委員) 小学校でも、温暖化のことをクイズ形式で楽しく学習したりしている。現状を学んだ子どもたちも色々思いは持っているが、実行に移すとなると難しく、結果として涼しいところでゲームをして過ごすという風になってしまっている。環境問題の重要性について理解はしているが、行動に結びつけるのが難しいのだと思う。

小学校は冷暖房完備だが、28度設定でも扇風機を回したり、まめに掃除をしたりすれば、涼しく過ごせるということを経験させている。体操服のリサイクルについても話題にしながら、リサイクルについても考えさせている。自分に何ができるか、というのを考えさせているつもりである。

環境の地図作り等も実施しているし、こういったことを通して、環境を守っていききたいなと思える子どもたちに育てたいと思っている。

(塩路委員) あと最も言いたかったことは、エネルギーという言葉が一つも入っていない。環境とエネルギーは切っても切れない関係なので、そうした視点をもう少し前面に出してほしいと思っている。先ほどのワークショップの件だが、自分の子どもが幼かった頃のこと考えても、そんなに考えているかなと懸念する。意見を引き出すのは難しいので、京都市の特徴的な取組を紹介して、それから何かを連想させてみるとか、何か呼び水があれば引き出せるのではないかなと思う。

(森本委員) 私も子どものワークショップのようなものに何度か参加させていただいたことがあるが、そこから思ったことは、環境というのは倫理観を養ったり、将来の行動をどうするかということを考えたりさせることができるものであるとい

うことである。

自然共生については、体験を伴ったうえでないと意見を出すのは難しい。現在、宝ヶ池公園の子供の楽園ををベースに、プレイパーク、自然あそび教室などの事業をやっている。里山などのありのままの自然をできるだけ体験させて、栽培・飼育・遊びを体験させている。

環境を考える際、京エコロジーセンターが会場だと、循環型と低炭素については大丈夫だが、自然共生の考え方が抜け落ちる可能性がある。その点を考慮に入れていただいて、ワークショップをしてもらえたらと思う。

(中島委員) 例えば牛乳パック等も本当にリサイクルした方がいいのかということについて、表面のポリエステルをはがすのにコストが高いとも聞いたこともあるし、市民としてはどちらが正しいのかという疑問が残る。牛乳パックをリサイクルすることによって、森林破壊を食い止められるのか、再生には手間と費用が掛かるので、このコストが逆に良くないのか。京都市として、どういう方向性を持っているのか、市民としてどっちを子どもや孫に教えていったらいいのか分からないといったような側面もある。

(内藤会長) そのような疑問は他にもたくさんある。ハイブリッドカーは本当にいいものなのか、水素自動車はどうかなど、一般市民はどのように考えればいいだろうか。そういう情報をちゃんと出していくようにしないとイケない。

(浅岡委員) ワークショップについてだが、ワールドワイドビューのような大人を対象にしたワークショップでも丸一日の大半は講義に充てられる。その講義は世界共通の教材で行う。その中では、いかに温暖化は大変なことか、対策をするところという効果がある、という説明をしていく。日本の説明会も、もっと明確に、ニュートラルに進める必要がある。

子どもたちも、集まって急に意見を言うように促されても、難しいと思う。明快な知識や情報を得て、討議をするというのが良いのだと思う。子どもたちにも、せっかく集まるのだから、京都市はこういうことを行っているということをお教えしたうえで、意見を出してもらおうというのが良いのではないだろうか。

(久山委員) 私はエコロジーセンターに深く関わっている一員である。ワークショップは、今回の計画策定のポイントであると思っている。一定の成果を期待したいところだが、1時間半で果たして子どもたちに何ができるのかとなると、今まで議論があったとおりであると思う。その中で、ファシリテーターの役割が非常に重要になってくる。

エコロジーセンターは、周囲に自然はないけれども、何度も副読本を作ったり、展示の検討を重ねたりしてきていて、ある程度の英知を集めたものが器の中にある。そういったことをスタッフは振り返りながら、どのように進行していくのか十分議論しておくことが大事だと思う。

子どもたちが発言するのに重要なのがリーダーとの信頼関係である。人間的な信頼感があれば、自由に発言することができて、発言が発言を呼ぶ好循環になる。

そういった理由も含めてファシリテーターの役割は重要で、彼らが今まで習得してきた知識を十分に生かし、今まで培ってきたエコロジーセンターの経験、京都市の施策も含め準備をして、あとは彼らの持ち味で彼らと接していくことができれば、1時間半でも十分意見が出るのではないかと思う。

子どもたちが出す意見の中には素晴らしいものがある。突飛ではあるけれども、大人は実現性を重視して言えないようなことが子どもたちは言える。こういう期待もあるので、ファシリテーターとともに限られた時間ではあるが、準備されたらよいのではないかと思う。

(内藤会長) ファシリテーターの技量というのは素晴らしいものがある。

こういったところで委員の皆様から、もう少し御意見いただきたいところだが、時間が迫っているのでこのあたりで事務局にお返ししたいと思う。

(三宅部長) 時間が無くなってしまい、事務局からもお詫びする。ワークショップについては多く意見を頂戴したので、実施にあたってうまく運営できるよう、エコロジーセンターとも十分検討して実施してまいりたいと思う。

3 閉会

- ・地球環境・エネルギー政策監 挨拶